audio-technica

ATW-R76a

UHF ワイヤレスレシーバー

取扱説明書

Japanese

安全上の注意

本製品は安全性に充分な配慮をして設計していますが、使いかたを誤ると事故が起こることがあります。事故を未然に防ぐために下記の内容を必ずお守りください。

⚠ 警告	この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性があります」を意味しています。
⚠ 注意	この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負う、または物的損害が発生する可能性があります」を意味しています。

本体について

⚠ 警告	• **付属品のＡＣアダプター以外使用しない** 電流容量などの違いにより、火災・感電の原因になります。また、故障、不具合の原因になります。 • **本製品に異物（燃えやすい物、金属、液体など）を入れない** 感電によるけがや、火災など事故の原因になります。 • **異常（音、煙、臭いや発熱、損傷など）に気付いたら使用しない** 異常に気付いたら、すぐに使用を中止して、お買い上げの販売店か当社窓口に修理を依頼してください。そのまま使用すると、火災など事故の原因になります。 • **分解や改造はしない** 感電、故障や火災の原因になります。 • **強い衝撃を与えない** 感電、故障や火災の原因になります。 • **濡れた手で触れない** 感電によるけがの恐れがあります。 • **水をかけない** 感電、故障や火災の原因になります。 • **布などで覆わない** 過熱による火災やけがの原因になります。 • **同梱のポリ袋は幼児の手の届く所や火のそばに置かない** 事故や火災の原因になります。

⚠ 注意	• **不安定な場所に設置しない** 転倒などによりけがや故障の原因になります。 • **直射日光の当たる場所、暖房器具の近く、高温多湿やほこりの多い場所に置かない** 故障、不具合の原因になります。 • **火気に近づけない** 変形、故障の原因になります。 • **ベンジン、シンナー、接点復活剤などは使用しない** 変形、故障の原因になります。 • **密閉された狭い場所や熱がこもる場所には置かない** 変形、故障の原因になります。

ACアダプターについて

⚠ 警告	
	• **AC100V以外の電源には使用しない（日本国内専用）** 過熱による火災など事故の原因になります。 • **本製品以外には使用しない** 過熱による火災など事故の原因になります。 • **異常に気付いたら使用しない** 異常な音、煙、臭いや発熱、損傷などがあったら、すぐに使用を中止して、お買い上げの販売店か当社窓口に連絡してください。そのまま使用すると、火災など事故の原因になります。 • **コードは伸ばして使用する。釘などでの固定や、束ねたままでの使用はしない** 過熱による火災など事故の原因になります。 • **コンセントや本体にプラグを差し込むときは根元まで確実に差し込む** 過熱による火災など事故の原因になります。 • **コードを引っ張らず、プラグを持ってまっすぐ抜き差しする** 断線、故障の原因になります。 • **コードの上に物を置いたり、敷物や家具などの下に入れたりしない** 断線、故障の原因になります。 • **分解や改造はしない** 感電によるけがや、火災など事故の原因になります。 • **強い衝撃を与えない** 感電によるけがや、火災など事故の原因になります。 • **濡れた手で触れない** 感電によるけがの恐れがあります。 • **布などで覆わない** 過熱による火災など事故の原因になります。 • **プラグにたまったほこりなどは乾いた布で定期的に拭き取る** 事故や火災の原因になります。 • **ベンジン、シンナー、接点復活剤などは使用しない** 変形、故障の原因になります。

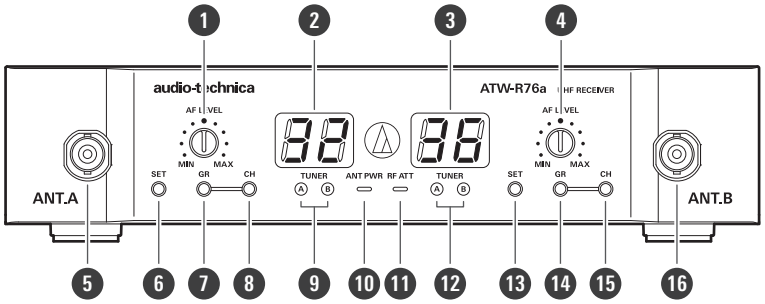
⚠ 注意	
	• **長時間使用しないときは、コンセントから抜く** 火災の原因になることがあります。安全のため、必ずコンセントから抜いてください。省エネルギーにご配慮ください。 • **足に引っ掛かりやすい場所にコードを引き回さない** 故障や事故の原因になります。 • **通電中のACアダプターに長時間触れない** 低温やけどの原因になることがあります。

使用上の注意

- ご使用の際は、接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 本製品は電波法に準拠して製造した日本国内専用モデルです。海外の法律には適合していません。海外で使用すると各国の法律により処罰されることがあります。海外では使用しないでください。
- 本製品は雑音電波の少ない800MHz帯域を使用していますが、携帯電話、蛍光灯、OA機器、大型の金属物、大型モニター機やデジタル回路内蔵機器などの影響をごくまれに受けることがあります。その場合は、影響を受けない位置まで離してください。

各部の名称と機能

前面



1 AF LEVEL コントローラー（チャンネルA）

音声出力レベルを調整します。工場出荷時は「センター」に設定されています。

2 グループ／チャンネルインジケーター（チャンネルA）

受信周波数のグループ／チャンネル番号を表示します。

3 グループ／チャンネルインジケーター（チャンネルB）

受信周波数のグループ／チャンネル番号を表示します。

4 AF LEVEL コントローラー（チャンネルB）

音声出力レベルを調整します。工場出荷時は「センター」に設定されています。

5 アンテナ入力端子（A）

付属または別売のアンテナを取り付けます。

6 SET（設定）ボタン（チャンネルA）

押すとグループ／チャンネルインジケーターが点滅し、グループ／チャンネル設定を変更できます。

7 GR（グループ切替）ボタン（チャンネルA）

SET（設定）ボタンを押したまま、GR（グループ切替）ボタンを押すと、グループ／チャンネルインジケーターのグループ番号（左側の数字）が変わります。

8 CH（チャンネル切替）ボタン（チャンネルA）

SET（設定）ボタンを押したまま、CH（チャンネル切替）ボタンを押すと、グループ／チャンネルインジケーターのチャンネル番号（右側の数字）が変わります。

9 TUNERインジケーター（チャンネルA）

ダイバーシティの受信状態を表示します。電波を受信すると、TUNERインジケーターのAもしくはBが緑点灯します。

10 アンテナ電源インジケーター

アンテナ電源がONのとき、インジケーターが黄点灯します。

11 RF ATTインジケーター

背面のRF ATT（受信感度切替）スイッチをON（9dBまたは18dB）にすると赤点灯します。

12 TUNERインジケーター（チャンネルB）

ダイバーシティの受信状態を表示します。電波を受信すると、TUNERインジケーターのAもしくはBが緑点灯します。

13 SET（設定）ボタン（チャンネルB）

押すとグループ／チャンネルインジケーターが点滅し、グループ／チャンネル設定を変更できます。

⑭ GR（グループ切替）ボタン（チャンネルB）

SET（設定）ボタンを押したまま、GR（グループ切替）ボタンを押すと、グループ／チャンネルインジケーターのグループ番号（左側の数字）が変わります。

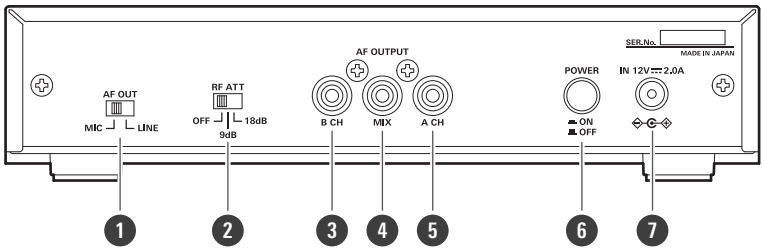
⑮ CH（チャンネル切替）ボタン（チャンネルB）

SET（設定）ボタンを押したまま、CH（チャンネル切替）ボタンを押すと、グループ／チャンネルインジケーターのチャンネル番号（右側の数字）が変わります。

⑯ アンテナ入力端子（B）

付属または別売のアンテナを取り付けます。

背面



1 AF OUT出力切替スイッチ

出力端子から出力される音声レベルを切り替えます。接続する機器の入力レベルによりMICまたはLINEに切り替えてください。工場出荷時は「MIC」に設定されています。

2 RF ATT（受信感度切替）スイッチ

レシーバー内部に入力される電波の強さを調整して妨害電波による干渉、混信を低減します。減衰量を9dBまたは18dBの二段階で設定できます。工場出荷時は「OFF」に設定されています。

3 チャンネルB出力端子

チャンネルBの音声を出力します。

4 MIX出力端子

チャンネルAとチャンネルBのミキシング音声を出力します。接続する機器のマイク入力が1つの場合、この出力端子をご使用ください。チャンネルAとチャンネルBの音声が同時に出力されます。

5 チャンネルA出力端子

チャンネルAの音声を出力します。

6 電源ボタン

ボタンを押すと電源が入り、グループ／チャンネルインジケーターが点灯します。

7 外部電源入力ジャック（DC IN 12V）

付属のACアダプターを接続します。

付属品

- ACアダプター
- 1/4λアンテナ ×2
- 接続ケーブル（RCAピンプラグ（赤白）-RCAピンプラグ（赤白）、1.5m）

アンテナの取り付けかた

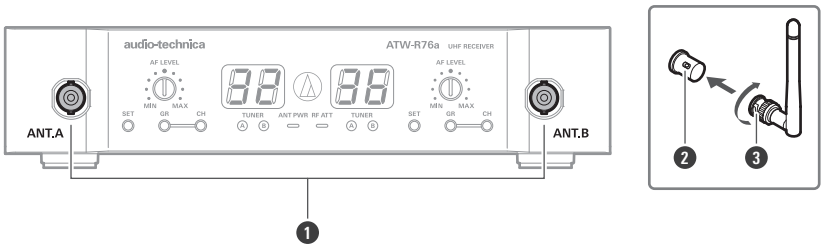
付属アンテナの取り付けかた

アンテナを取り付ける際は本体の電源を切ってください。

1 **付属アンテナの溝と本製品のアンテナ入力端子の突起部を合わせて、奥まで差し込みます。**

2 **右に回してロックします。**

3 **アンテナの角度を調整します。設定角度は45°にしてください。**

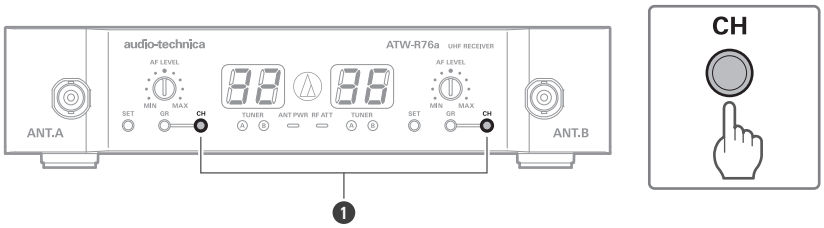


❶ アンテナ入力端子
❷ 突起部
❸ 溝

電源供給を必要とするアンテナを接続する場合

アンテナを取り付ける際は本体の電源を切ってください。電源供給を必要とする別売のアンテナを接続する際は以下の設定が必要です。

1 **左右のCH(チャンネル切替)ボタンを同時に長押しします。**



❶ CH(チャンネル切替)ボタン

2 **アンテナ電源インジケーターが黄点灯し、アンテナ入力端子にDC12Vが供給されます。**

- ご使用にならない場合は、再度左右のCH(チャンネル切替)ボタンを同時に長押しし、電源供給を解除してください。
- 接続した際、環境により混信や干渉、誤動作や雑音の原因になる場合があります。
- 対応製品については当社ホームページをご覧ください。

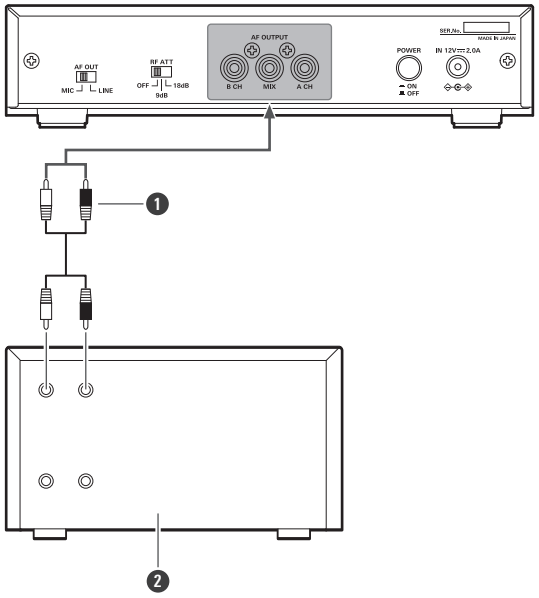
接続のしかた

接続する機器の取扱説明書もあわせてお読みください。チャンネルＡまたはチャンネルＢの出力とMIX出力の併用はハウリングや音割れを起こすことがあります。ご注意ください。

1 **付属のACアダプターを本製品の外部電源入力ジャック（DC IN 12V）と接続し、AC100Vコンセントと接続します。**

2 **付属または別売の接続ケーブルを本製品のAF OUTPUTとカラオケ機器などの接続機器の入力端子に接続します。**

- 接続機器のマイク入力／ライン入力（RCAピンジャック）に接続する場合、付属の接続ケーブル（RCAピンプラグ（赤白）－ RCAピンプラグ（赤白）、1.5m）を使用してください。一方を本製品のAF OUTPUTに、もう一方を接続機器のマイク入力／ライン入力ジャックに接続してください。
- 接続機器のマイク入力／ライン入力（φ6.3mmモノラル標準ジャック）に接続する場合、別売の接続ケーブル（RCAピンプラグ － φ6.3mmモノラル標準プラグ（L型））を使用してください。RCAピンプラグを本製品のAF OUTPUTに接続し、φ6.3mmモノラル標準プラグ（L型）を接続機器のマイク入力／ライン入力ジャックに接続してください。



❶ 接続ケーブル（付属または別売）

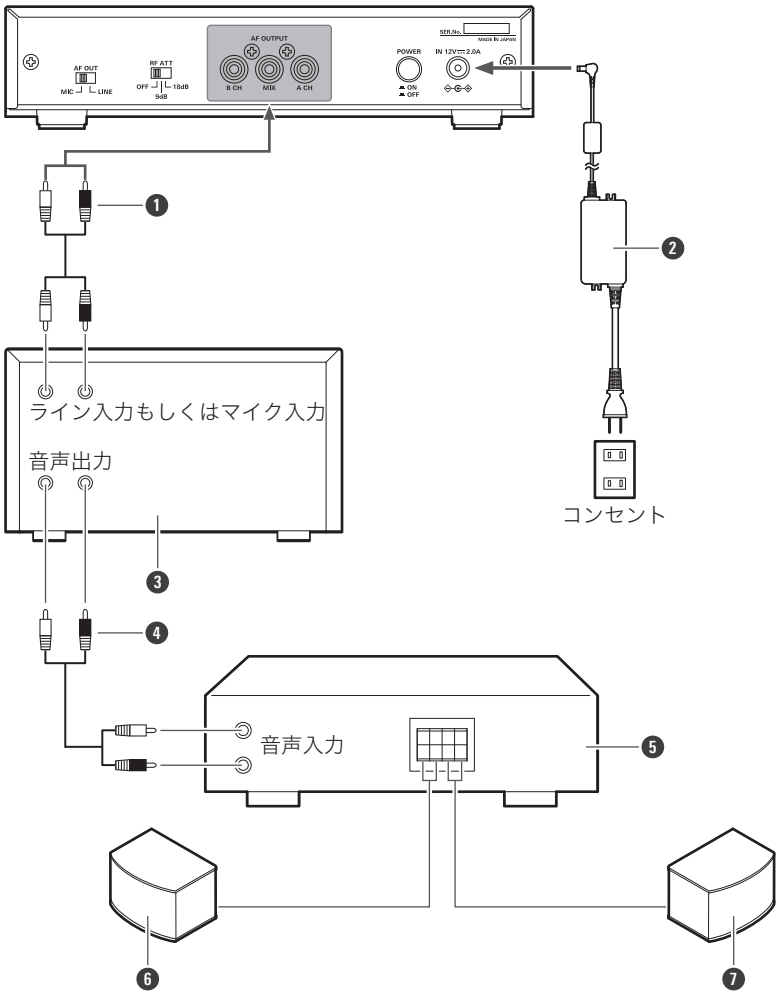
❷ カラオケ機器（コマンダー）

3 **レシーバーをラックの上などに置きます。**

- できるだけ高い場所に設置してください。周辺にテレビやデジタル機器がある場合は離して設置してください。電波の干渉やノイズなどの影響を受けることがあります。

- 必ず当社が販売しているケーブルを使用してください。別のケーブルを使用すると、ノイズ発生や受信不良の原因となります。

接続例

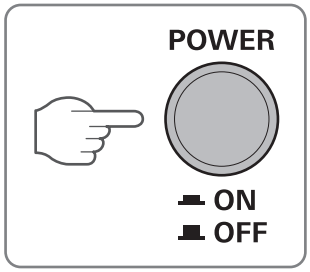


1. 接続ケーブル（付属または別売）
2. ACアダプター（付属）
3. カラオケ機器（コマンダー）
4. 音声ケーブル
5. パワーアンプ
6. スピーカー（R）
7. スピーカー（L）

使いかた

電源について

電源ボタンを押すと、電源のON／OFFが切り替わります。電源をONにすると、グループ／チャンネルインジケーターが赤点灯します。



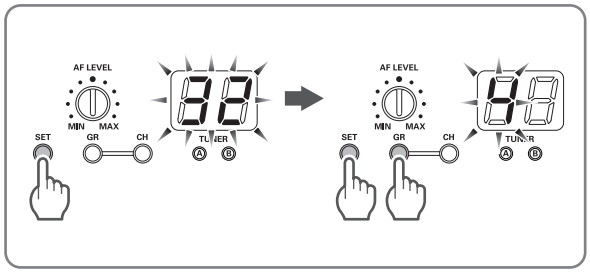
グループ／チャンネル設定について

SET（設定）ボタンを押し続けるとグループ／チャンネルインジケーターが点滅します。点滅中にSET（設定）ボタンを押し続けながらGR（グループ切替）ボタンまたはCH（チャンネル切替）ボタンを押して各設定を行ってください。

- 工場出荷時のチャンネルAは「32」、チャンネルBは「36」に設定されています。
- グループ／チャンネル設定は電源プラグを抜いても保持されます。
- 使用するマイクロホンと同じ番号に設定してください。

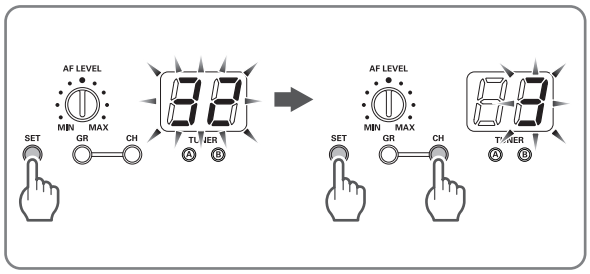
グループの設定

- チャンネルが1のとき、グループ表示は1→2→・・・→6→1の順に変わります。
- チャンネルが2～5のとき、グループ表示は1→2→・・・→5→1の順に変わります。
- チャンネルが6のとき、グループ表示は1→2→・・・→4→1の順に変わります。
- GR（グループ切替）ボタンを長押ししてもグループ表示は変わりません。



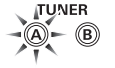
チャンネルの設定

- グループが1～4のとき、チャンネル表示は1→2→・・・→6→1の順に変わります。
- グループが5のとき、チャンネル表示は1→2→・・・→5→1の順に変わります。
- グループが6のとき、チャンネル表示は1のみとなります。
- CH（チャンネル切替）ボタンを長押ししてもチャンネル表示は変わりません。



TUNERインジケーターについて

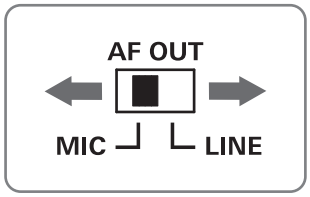
マイクロホンの電源を入れると、受信状態によって本製品のTUNERインジケーターが緑点灯します。

	TUNER Aの受信状態がよく、TUNER Aで受信しています。
	TUNER Bの受信状態がよく、TUNER Bで受信しています。
	電波を受信していません。

AF OUT切替について

AF OUTPUTから出力される音声のレベルを切り替えます。接続する機器の入力レベルがMICならMICに、LINEならLINEに切り替えてください。

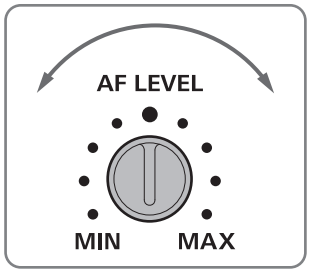
- 工場出荷時は「MIC」に設定されています。



音量について

AF LEVELコントローラーを回して音量を調整します。

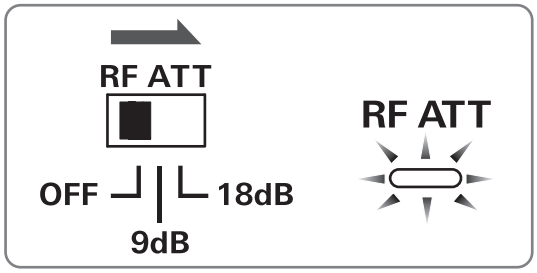
- 工場出荷時は「センター」に設定されています。



RF ATT切替について

ご使用の環境に応じてRF ATT（受信感度切替）スイッチの設定をします。外部からの混信や干渉を受けた場合、ON（9dBまたは18dB）に設定してください。ONにすると感度が下がり、混信や干渉を受けにくくなります。

- 工場出荷時は「OFF」に設定されています。
- 感度を下げると、マイクロホンの使用範囲も狭くなります。
- ON（9dBまたは18dB）のときは、前面側のRF ATTインジケーターが赤点灯します。



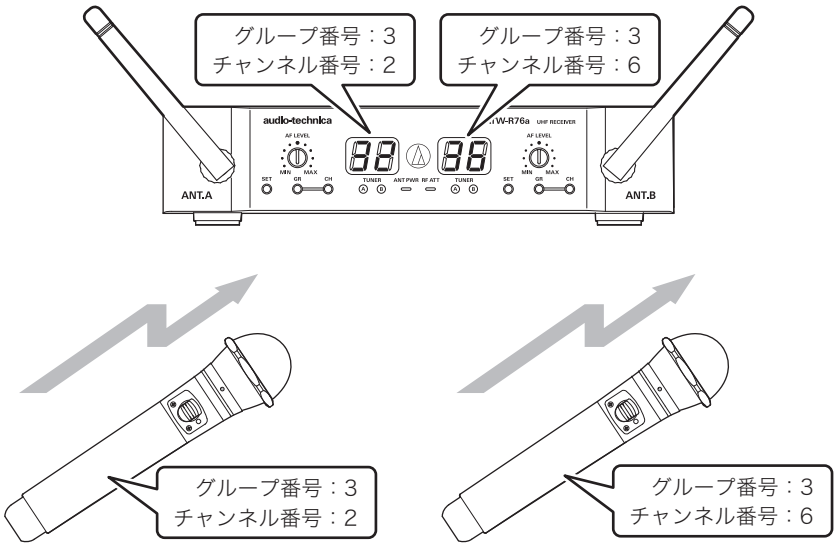
ワイヤレスシステムについて

当社UHFワイヤレスマイクロホン（別売）の取扱説明書もあわせてお読みください。本製品はUHFワイヤレスマイクロホン2本の同時使用が可能です。

- グループ／チャンネル表のうち、任意の2チャンネルを選択可能です。
  本製品のチャンネルＡとチャンネルＢを同時使用する際は、同一グループ内の異なるチャンネルに設定してください。
- 本製品とマイクロホンのグループ／チャンネル番号を同一に設定してください。

- チャンネルＡとチャンネルＢを同一チャンネルに設定すると、誤動作や雑音を発生する恐れがあります。
- 周波数が異なっていても、ほかのグループと併用すると干渉を起こす場合があります。

使用例



- マイクロホン同士、また本製品とマイクロホンは1m以上離して使用してください。誤動作や雑音が発生する恐れがあります。
- 周辺にテレビやデジタル機器がある場合は離して使用してください。電波の干渉やノイズの影響を受けることがあります。

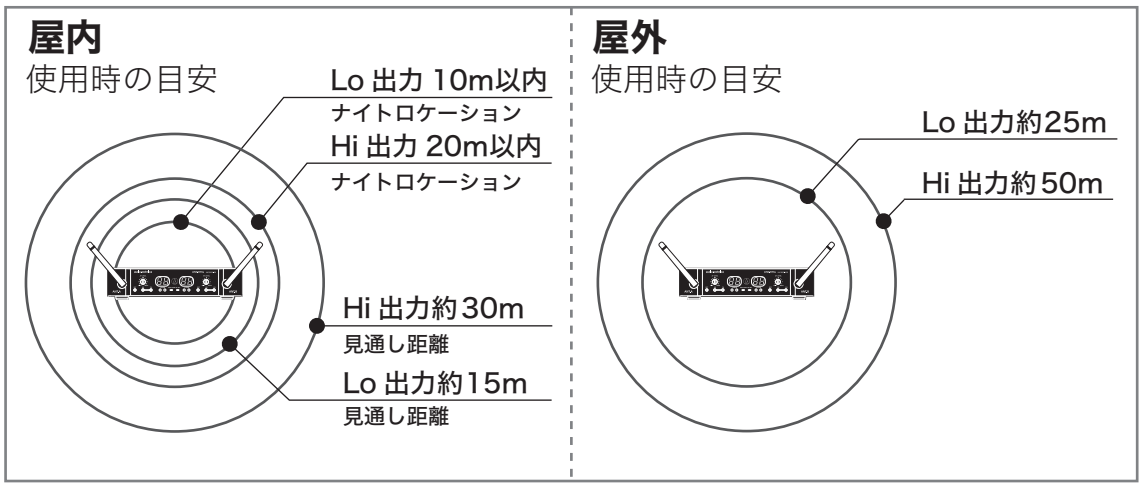
マイクロホンの同時使用について

- 同一グループ内で最大6チャンネル（3セット）まで使用できます。
  同じチャンネル（周波数）のワイヤレスシステムは同時に使用できません。
- 音をモニターしながら、マイクロホンの電源を順々にオンにして混信や干渉のないこと確認してください。
- ハウリング（ピー、あるいはキーンという音）発生時は、本製品のAF LEVELコントローラーか、接続しているミキサーやアンプなどの音量を小さくしてください。

受信範囲

下記の受信範囲はマイクロホン(当社指定UHFワイヤレスマイクロホン)を使用し、本製品のRF ATTインジケーターが未点灯時の目安です。

- 見通し距離とは本製品とマイクロホンの間に障害物がなく、見通せる状態での距離です。
- 周囲の環境や本製品の設定条件などにより受信範囲は変わります。
- 本製品とマイクロホンの間に障害物がある場合、上記の受信範囲以下でも雑音が出たり、音が途切れたりすることがあります。



グループ／チャンネル表

連番	周波数	グループ／チャンネル番号					
		1	2	3	4	5	6
1	806.125MHz	B 11					
2	806.250MHz		B 21				
3	806.375MHz	B 12					
4	806.500MHz		B 22				
5	806.625MHz			B 31			
6	806.750MHz				B 41		
7	806.875MHz			B 32			
8	807.000MHz		B 23				
9	807.125MHz	B 13					
10	807.250MHz						B 61
11	807.375MHz			B 33			
12	807.500MHz				B 42		
13	807.625MHz					B 51	
14	807.750MHz	B 14					
15	807.875MHz		B 24				
16	808.000MHz				B 43		
17	808.125MHz					B 52	
18	808.250MHz			B 34			
19	808.375MHz					B 53	
20	808.500MHz		B 25				
21	808.625MHz			B 35			
22	808.750MHz					B 54	
23	808.875MHz		B 26				
24	809.000MHz	B 15					
25	809.125MHz				B 44		
26	809.250MHz			B 36			
27	809.375MHz				B 45		
28	809.500MHz	B 16					
29	809.625MHz					B 55	
30	809.750MHz				B 46		

組み合わせ表

本製品は、B型の周波数を使用します。B型のワイヤレスマイクロホンシステムの周波数割当は、全社の製品が同一と定められており、お店が隣接するような場所での使用は混信や干渉を起こす恐れがあります。混信などを起こす場合は周波数の設定を変更するか、本製品のRF ATT（受信感度切替）スイッチを「ON」にしてご使用ください。

チャンネル / グループ	1	2	3	4	5	6
1	806.125MHz	806.375MHz	807.125MHz	807.750MHz	809.000MHz	809.500MHz
2	806.250MHz	806.500MHz	807.000MHz	807.875MHz	808.500MHz	808.875MHz
3	806.625MHz	806.875MHz	807.375MHz	808.250MHz	808.625MHz	809.250MHz
4	806.750MHz	807.500MHz	808.000MHz	809.125MHz	809.375MHz	809.750MHz
5	807.625MHz	808.125MHz	808.375MHz	808.750MHz	809.625MHz	
6	807.250MHz					

故障かな?と思ったら

? 電源が入らない

- ACアダプターが外れていないか確認してください。
- 電源スイッチがオフになっていないか確認してください。

? 音声が出ない

- 本製品とマイクロホンのグループ／チャンネル番号が一致しているか確認してください。
- 本製品とほかの機器が正しく接続されているか確認してください。
- 本製品のAF LEVELの音量を絞りすぎていないか確認してください。
- AF OUT出力切替スイッチは正しい出力に設定されているか確認してください。

? マイクロホンを2本使用するとノイズが発生する

- 本製品のチャンネル番号がチャンネルAとチャンネルBで違う数字に設定されているか確認してください。
- 本製品のグループ番号がチャンネルAとチャンネルBで同じ数字に設定されているか確認してください。

? 音が歪む

- 本製品のAF LEVELの音量が大きくなりすぎていないか確認してください。

? 受信しない

- 本製品にアンテナが取り付けられているか確認してください。
- 本製品とマイクロホンのグループ／チャンネル番号が一致しているか確認してください。
- 本製品とマイクロホンが離れすぎていないか確認してください。
- 本製品のTUNERインジケーターが点灯しているか確認してください。点灯していない場合、本製品が電波を受信していない可能性があります。もう一度、最初から操作してください。
- RF ATTインジケーターが点灯していないか確認してください。点灯している場合、電波を受信する範囲が狭くなっています。RF ATT(受信感度切替)スイッチをOFFにしてください。

テクニカルデータ

受信方法	トゥルーダイバーシティ
受信方式	ダブルスーパーヘテロダイン
受信周波数	806.125～809.750MHz（30波）
受信チャンネル	B型指定の30チャンネルのうち2チャンネル
トーン信号	32.768kHz
受信感度	15dBμV（SN比30dB、1kHz、周波数偏移±30kHz）
総合歪率	1.0%以下（60dBμV入力、1kHz、周波数偏移±30kHz）
オーディオライン出力レベル	-28dBV±3dB（周波数偏移±5kHz）※AF LEVEL MAX時
オーディオマイク出力レベル	-35dBV±3dB（周波数偏移±5kHz）※AF LEVEL MAX時
オーディオ出力端子	RCAピンジャック
アンテナ入力端子	BNC型（50Ω）
RF ATT	0±3dB、-9±3dB、-18±3dB
電源	DC12V 2.0A（付属のACアダプターを使用、日本国内専用）
消費電力	約8.5W
動作温度範囲	0℃～40℃
保存温度範囲	-20℃～60℃
外形寸法	209.8mm×231.4mm×48.5mm (W×D×H)
質量	約1.3kg
付属品	ACアダプター (AD-SM1220AO)、1/4λアンテナ×2、 接続ケーブル(RCAピンプラグ(赤白)-RCAピンプラグ(赤白)、1.5m)

- 改良などのため予告なく変更することがあります。

株式会社オーディオテクニカ
https://www.audio-technica.co.jp/amz/
351711090-01-02
ver.1 2025.02.01
ver.2 2025.03.01